

# 患者さんの立場で 考え、行動すること —— 優しい治療で予防歯科を目指す

明るく、清潔に、そしてあたたかく

対談 院長平賀敏人×三ツ木清隆



平賀歯科医院 院長  
平賀 敏人  
Toshibito Hiraga

大阪府東大阪市出身。祖父、父共に医師という家庭に生まれ育つ。歯科医であった父の姿に憧れたこと。そして幼い頃から手先が器用で、「歯科医に向いている、という周囲の声でその気になった(笑)」という。大阪大学歯学部を卒業後、3年間口腔治療科に残って勉強を重ねる。その後、小児歯科専門医院など開業医を回り、平成7年に帰郷。父と共に診療にあたるようになるも、平成9年に父が他界。以来、院長として、邁進する日々である。また歯科医院勤務の傍ら大学にて研究を続けた功績が認められ、平成10年7月には大阪大学博士号(歯学)を取得した。

## 父から学んだもの

三ツ木 院長は二代目でいらっしゃるのか。お父様でもある先代はどのような方でしたか。

平賀 父は2年ほど前に他界したのですが、優しく患者さんの評判は非常に良かったですね。家では厳格で、右のものを左に動かすのも嫌がるタイプだったのですが、ここでは自らこまめに拭き掃除をしたり(笑)。私が子どもの頃はよく拳骨で殴られたものですが、患者さんにはどんな人でも優しく丁寧に治療してい

たそうです。「私に任せておけば大丈夫です」というのが父の決まり文句で、それまで恐くて歯科に行けなかった人も父には安心して治療を任せられたと。これは父が亡くなってから患者さんが教えてくれたことなのですが。

三ツ木 では、基本的にはお父様の患者さんを引き継いでおられると。

平賀 ええ。もう30年、子どもの頃から通っているというカルテの分厚い患者さんもいらっしゃいます(笑)。昔は家の1階で診療していましたので、その頃、

幼い私がチョロチョロしていたのを見ていたと言われたり、気恥ずかしい思いもしているのです。

三ツ木 (笑)それはそれは。院長が先代から最も学んだこととは何ですか。

平賀 私は技術的なことは外で学びましたが、その技術を活かす患者さんとの接し方というのを父から学びました。ふとした仕草や言葉遣いが父に似てきたと周囲からもひやかされます(笑)。

また、最近は私の患者さんも紹介が増えてきていますので、患者さんに接する態度というのは、やはり大切なことなのだと痛感しているのです。

三ツ木 なるほど。また、長く親しまれていた先代の後を継ぐとなると、プレッシャーも大きいことでしょうか。特にどのような点に気を付けていらっしゃるでしょうか。

平賀 特に清潔感を大切にするなど、できるだけ院内の雰囲気明るくしています。歯の治療を受けるのは、患者さんにとって気の重いことですからね。まずリラックスしてもらい、治療を継続して頂くことを大切にしています。

三ツ木 その点で、スタッフの皆さんにはどのようなお話を。

平賀 常に患者さんの立場で考え、行動するようにと。器具を落としたり、少しでも不快な音をたてると患者さんの恐怖心を煽ることになりますのでね。

三ツ木 確かに。待合室で歯を削る音を聞いただけで萎縮してしまいますからね(笑)。その細やかな心遣い、お父様から学ばれたもの大きさを感じます。

## 最先端の技術を優しく提供

三ツ木 歯科医の意識が変わったと言われますが、その一方で技術的にもかなり進歩しているのでしょうか。

平賀 ええ。中でも患者さんの恐怖心は万国共通で、世界的にあのタービンの音をなくするという方向です。実際には、スウェーデンで虫歯を溶かす薬が使用されています。極力歯を削らない治療が実現しています。この薬は、平成11年の4月から日本でも許可される予定なのです。また、圧力で歯を削る噴射式の機器などもあります。

三ツ木 その他にレーザー治療などもあ



三ツ木 清隆のドクター訪問

りますよね。

平賀 ええ。私共でも取り入れる予定なのですが、どれも万能というわけではないのです。ただ、少しでも効果のあるものは取り入れて、患者さんの恐怖心というものを和らげていきたいと思っています。結局、「音」という情報が脳にインプットされているわけで、聞いただけで痛みを感じてしまうでしょう(笑)。

だからそのイメージを払拭するのが理想

なのです。

三ツ木 では、その意味で勉強が欠かせませんね。

平賀 常に新しい情報を仕入れる努力が欠かせません。歯科治療の先進国であるアメリカに行ければベストなのですが、時間が取れませんからね。日々、情報収集に努めています。

## 予防歯科で健康を支えたい

三ツ木 そうした機器の発達を別にして、院長は非常に優しい雰囲気をお持ちですから、お子さんにも受けが良いのではないですか。

平賀 私自ら子どもが好きで、小児歯科専門の医院に勤めたこともあります。そして今、1番奥の診察台を子ども専用に使っています。治療中はヘッドホーンで音楽を流しながら、ディズニーなどアニメのビデオを観てもらい、少しでも治療の音が聞えないように配慮しています。

三ツ木 お子さんは喜ばれるでしょう。

平賀 ええ。私共のところへしか行かないと言うお子さんもいらっしゃるそうで、遠距離を自転車で通って下さる方もいます。非常に嬉しいことですね。

三ツ木 では、最後に今後の展望を。

平賀 患者さんの痛みを取るだけという歯科医療は、既に過去のもので、これからは歯並びや矯正、歯の色といった審美的な面も含めて診ていけるようにならねばなりません。また、歯そのものだけでなく、身体全体の健康や美というものを診ていきたいと思っています。

三ツ木 欧米などでは、内科などとの連携も上手く行っていますものね。

平賀 ええ。ですから、まず足を運びやすい雰囲気をつくり、そして予防歯科の領域に踏み込みたいと思っています。歯の健康を保つことで、身体全体の健康を保つこともできますので。

三ツ木 院長であれば必ず実現できると思いますので、益々、頑張ってください。

(1998年10月取材)



## 平賀歯科医院

大阪府東大阪市小阪2-19-8 YM八戸ノ里ビル2F

TEL: 06-6788-0282

FAX: 06-6788-0287

インタビューー 三ツ木 清隆